

家計を投資から遠ざけるものは何か

— 時間選好・金融リテラシー・投資イメージの役割と政策的含意 —

関口 麻衣子 (SBI 金融経済研究所)

副島 豊 (SBI 金融経済研究所)

要 旨

損失が生じない投資機会が目の前にあっても、なぜ人は投資しないのか。SBI 金融経済研究所が実施しているアンケート調査では、仮想的投資商品を用いてリスク回避度(確実性等価)の計測を行っている。最低でも元本が保証される選択肢があるにもかかわらず回答者の66%が「買わない」を選択した。この一見すると不合理な投資回避行動は株式市場参加パズルを解く手掛かりとなりうる。日本人1万人の個票データに対し、カイ二乗検定、機械学習手法(決定木、ランダム・フォレスト、勾配ブースティング)、ベイジアン・ネットワーク、ロジスティック回帰分析を適用し、投資回避の決定要因を重要度・因果構造・限界効果の各側面から検証した。分析の結果、投資回避を最も強く規定する要因は時間選好率の高さであり、次いで金融リテラシーの低さ、国内株式に対するポジティブイメージの欠如が重要な要因として特定された。一方、性別・年齢・学歴・居住地といった人口統計学的属性の直接的影響は相対的に小さく、クロス集計で観察される男女差は時間選好率や金融リテラシーの性差による交絡効果である可能性が示唆された。これらの知見は、金融リテラシー教育に加え、投資に対するポジティブな認識形成を促す施策の重要性、および時間選好率の決定要因の解明という新たな研究課題を提起するものである。

Keyword: 株式市場参加パズル、時間選好、金融リテラシー

JEL Classification: G11, G41, G53